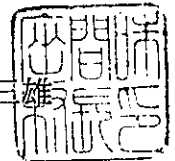




座発第 3782 号
平成20年10月24日

国土交通省道路局長 殿

座間味村長 仲村 三雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号にて依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。

記

意見・提案書：様式①～④

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1 道路の規格の柔軟化

既に多くの要望が出されたところであるが、今後はいわゆる 1. 5 車線道路での整備や歩道を弾力的に取り付けるなど、地域の実情に応じた整備が可能になるよう、規格の柔軟化を要望する。

また、排水溝の整備などでも、台風による豪雨や大雪などの地域の自然環境に応じた整備が可能になるようにされたい。

2 道路の維持補修費に対する国庫負担の増額

高規格道路や自動車専用道路等を除けば、道路の整備は一定水準達成されており、今後は維持補修により国民の共有財産である道路の有効利用を図ることが望まれる。この中で、例えば沖縄県においては、夏場の除草作業に他府県よりも多くの労力を必要とする、あるいは災害補修とまではいかないまでも、台風等による損傷がある。また、北海道などの豪雪地帯においてもそれぞれの事情に応じた維持補修が必要となる。これらのことから、今後、維持補修費に対する国庫負担の増額がぜひとも必要である。

3 道路と街路の使途の柔軟化

道路と街路の性格の差異や整備の意味づけの違いについては理解しているが、住民の視点から見たら道路と街路には差はない。このため、例えば用地確保の進捗状況などに応じて、道路予算と街路予算の使途変更を弾力的に認めるなど、市町村・都道府県が予算を有効に活用できるような制度が必要である。

○現状

1 三位一体改革以降、道路整備に要する財源の確保が困難になっており、村道座間味-阿佐線の整備が途中までとなっている。

2 整備済みの村道において、強い日差し等による路面の痛みが見られる。

3 夏の日差しにより歩道や歩道脇の雑草の成長が著しく、美観を損ねると共に歩行者の安全にも問題がある。

○課題

1 今後、交付金の活用による整備を図る必要がある。

2 村道の改修を進め、併せて透水性舗装などによる水源の確保も求められる。

3 除草作業の回数を増やす必要があるが、予算の都合がつかない。現在も行事に併せて住民の協力を呼びかけている。

②-2 地域の目指すべき将来像

1 観光地にふさわしい道路の整備と維持

- (1) 小さな離島の観光地として、海岸沿いの散策や景勝地での写真撮影など、観光客が楽しめる道路の整備を進めるとともに、丁寧な除草作業により美しくかつ安全な道路にする。
- (2) 街路におけるポケットパーク的な機能を持った空地を整備し、住民の憩いの場にすると共に観光客とのふれあいの場にする。
- (3) 道路舗装の意匠に工夫し、道路から地域の歴史と文化が感じられるような整備を行いたい。

2 自然環境と災害に強い道路

- (1) 南国の強い直射日光に対しても十分な耐久性を持った道路にして、維持補修費用の軽減を図る。
- (2) 離島地域では水の確保が困難な場合も多く、透水性舗装の拡充により地下水の確保を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項

様式 ④

沖縄県座間味村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・交通安全と住環境整備	一級村道座間味阿佐線の整備（改築） 本路線は座間味・阿佐集落間の唯一の路線であるが幅員が狭く、また長年にわたる日射・風雨等により路面が凸凹状態で、以前には豪雨により道路本線が崩落したため、交通が遮断され阿佐地区が数週間孤立し住民の生活に多大な影響を及ぼした。 対策として、改築事業により道路拡幅・改良工事を行っている。	本路線は生活道路及び観光道路としての役割を果たしており、現在の改良済区間においては車両の通行がスムーズで、また景観が良く観光にも寄与している。 路線全体の改良工事等により、安全な通行及び安心な住環境が形成でき、観光立村として地域の活性化が期待できる。	